

1. 目標

【現状】

- ▶道路は通勤・通学や地域医療などの日常生活に欠かせない社会基盤であるが、未だ不十分なことから、多くの地域で支障をきたしている。
- ▶特に冬期間には、市街地や中山間地の狭隘箇所において、堆雪による支障等が増大する。



【目標】

- ▶冬期においても円滑な交通を確保し、中心市街地や集落間の相互アクセスを改善する道路整備等と併せて、地域の魅力を向上させる社会資本整備を行い、活力のある地域づくりを行う。



▲降雪期のすれ違い困難



▲降雪期の渋滞

計画の成果目標	H30	R4
冬みち安全道路整備率※1	17.8%	18.6%
2次医療施設※310分圏域人口率※2	74.6%	74.9%

※1 冬みち安全道路整備率
(堆雪幅が十分確保(W=8.5m以上)された県管理道路延長)÷(県管理道路延長)

※2 2次医療施設10分圏域人口率
(2次救急医療施設に10分以内に搬送可能な人口)÷(県人口)

※3 2次医療施設
二次保健医療圏(村山・最上・置賜・庄内の4圏域)を対象に、手術や入院治療の必要な重症患者の診療を実施する医療施設

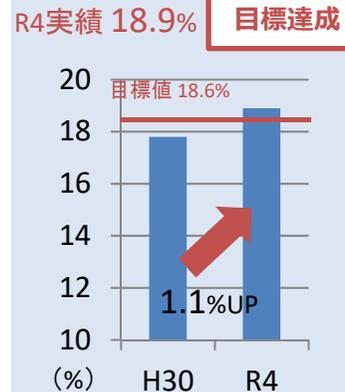
2. 事業の内容

- ▶事業の期間:平成30年度～令和4年度(5年間)
- ▶事業の主な内容
 - 基幹事業 : 道路のバイパス整備、拡幅等
 - 関連事業 : 交通安全施設整備
 - 効果促進事業 : 該当なし
- ▶事業実施主体 : 1県8市8町2村
- ▶全体事業費 : 24,788百万円

3. 事業による成果

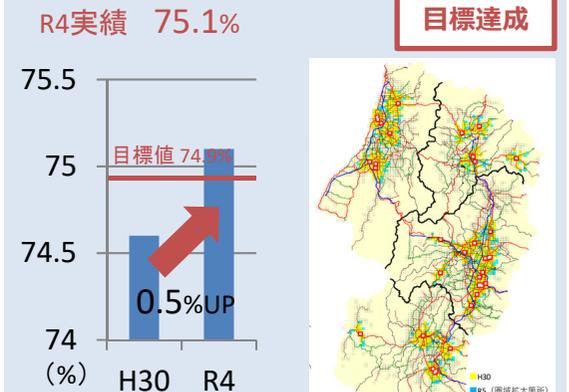
- ◆基幹事業 県事業33箇所のうち16箇所完了 ※事例①～②
- ◆関連事業 県事業1箇所のうち1箇所完了
- ◆効果促進事業 -

冬みち安全道路整備率



▲冬みち安全道路整備率

2次医療施設10分圏域人口率



▲2次医療施設10分圏域人口率 ▲二次医療10分圏域該当メッシュ

4. 評価と今後の対応

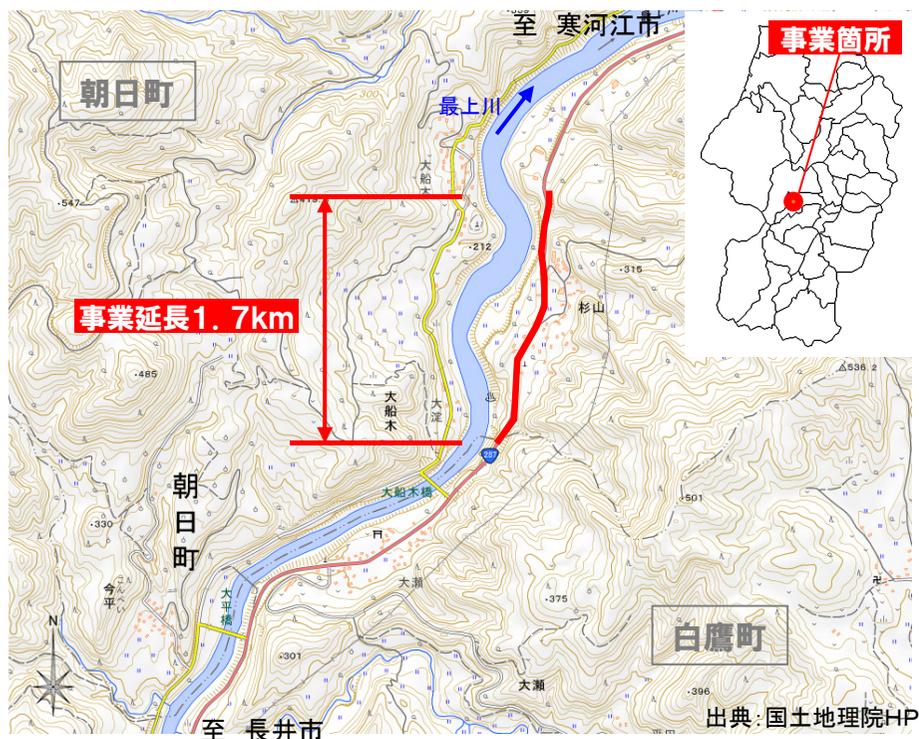
「冬道安全道路整備率」および「2次医療施設10分圏域人口率」については目標を達成し、着実な整備推進が図られた。

冬期の積雪による通行阻害については、山形県の抱える重要な交通課題であり、冬道でも自動車が安全にすれ違えるように堆雪幅を確保した道路の更なる整備が必要である。

5. 整備効果事例

【事例①】道路拡幅

1-A006 国道287号 杉山(2)工区



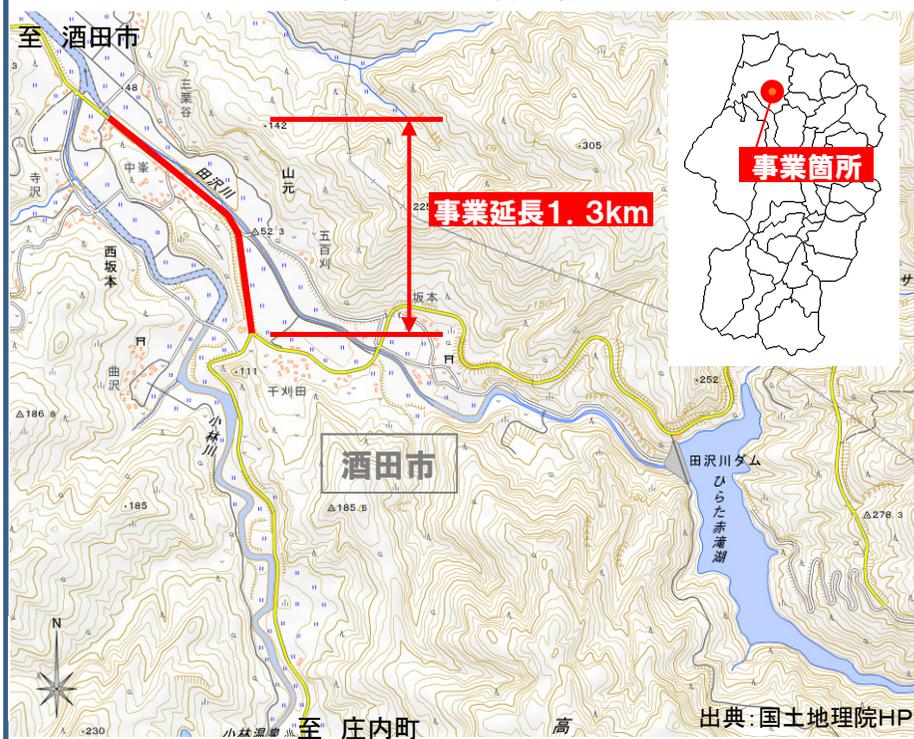
➤道路幅員が狭く、かつ急カーブで、自動車・自転車共に危険な状況



➤道路拡幅整備により、隘路区間の解消、安全性の向上

【事例②】道路拡幅

1-A034 一般県道田沢下新田線 山元(2)工区



➤道路幅員が狭く、かつ急カーブで、自動車・自転車共に危険な状況



➤道路拡幅整備により、隘路区間の解消、安全性の向上